

『日本山岳文化学会論集』投稿規程

1. 論集の性格

- 1) 本論集は山岳に興味と関心をもつ方々の山岳文化に関する学術的研究に対して発表の機会を提供し、山岳文化研究の学問の発展に寄与することを目的とする。
- 2) 本論集の出版は原則として年1回とする。

2. 投稿資格

- 1) 投稿者は次のいずれかに該当する者とし、番号の順に掲載を優先する。
 - (1) 大会で口頭発表を行った者（非学会員を含む）。
 - (2) 分科会の研究成果を公表する者。
 - (3) 編集委員会が投稿を依頼した者（非学会員を含む）。
 - (4) 一般投稿者（学会員）。
 - (5) 一般投稿者（非学会員）。
- 2) 非学会員による一般投稿は、本学会員の推挙に基づいて認める。
- 3) 提出された原稿は必要に応じて査読委員会が審査を行う場合がある。

3. 投稿の内容

- 1) 投稿内容は、次のカテゴリーに区分する。
 - (1) 原著論文
 - (2) 研究ノート
 - (3) 資料紹介
 - (4) 調査・実践報告
 - (5) その他
- 2) 投稿内容は原則として未発表のものに限る。ただし以下のものについては、初出を明記することを条件に、投稿を認めることがある。
 - (1) シンポジウム、研究発表会、講演会等で、要旨・資料等として発表されたもの。
 - (2) その他編集委員会が特に認めたもの。

4. 著作権および著作権

- 1) 掲載論文の著作権は著者に帰属するものとし、本学会はその著作権をもつものとする。
- 2) 他の学術誌等へ転載する場合には、編集委員会に申し出てその承認を得ること。

5. 投稿規程の改定

- 1) 投稿規程の改定は編集委員会が行い、理事会の承認を得る。

《投稿細則》

1. 原稿の総量

- 1) 論文原稿の総量は、図版・写真等を含めて本文 10 ページ以内を原則とする。本論集の 10 ページ分は文字量にして 400 字詰め原稿用紙約 39 枚、タイトル部分半ページ分を除いた文字量は 400 字詰め原稿用紙約 37 枚に相当する。
- 2) 依頼原稿以外の一般原稿で大幅にページが増加した場合は、当該ページ分の印刷費用を執筆者に負担願うことがある。

2. 使用言語

- 1) 論文に使用する言語は日本語または英語を原則とする。
- 2) 他言語での執筆を希望する場合は、編集委員会の承認を要する。

3. 文体

文体は「～である」体に統一する。ただし、詩歌、文芸作品、歴史資料などで特別の理由がある場合はこの限りではない。

4. 使用する文字

- 1) 数字は原則としてアラビア数字（1桁のみ全角数字、2桁以上は半角数字）を用いる。
- 2) 年号は西暦による表記を基本とし、アラビア数字（半角数字）を用いる。ただし、特に必要とする場合は（ ）を付して紀年号を用いてもよい。
- 3) 句読点は「、」「。」に統一する。「」（コンマ）「.」（ピリオド）は用いない。

5. 表題・氏名・所属

- 1) 原稿には論文の内容を簡潔に表す表題をつけ、必要があれば副題もつけることができる。表題・副題とも英訳文を併記する。
- 2) 原稿には執筆者の氏名と、その英文（ローマ字）表記を明記する。
- 3) 氏名に続けて勤務先、大学・学部、山岳会・山岳団体などの簡単な所属名、居住地（都道府県名）を明記し、いずれも英訳文を併記する。所属名が多数ある場合は代表的なもの 2～3 項目を選んで記載する。
- 4) 上記 1)～3) については、本文が英語の場合はそれぞれ和訳文を併記する。

6. 要約文（サマリー）

- 1) 本文原稿の最初の部分に、表題の下に掲載する要約文または導入文を 400 字以内にまとめる。またその英訳文（300 語以内）を付する。（当分の間、英訳文を省略することができる）
- 2) 本文が英語の場合は、1) の要約文とは別に、1 ページ程度（約 1500 字、必要とする写真等のスペースを含む）にまとめた日本語要旨を添付する。

7. 見出しの表示

内容理解に資するため、研究目的、方法、事例研究などの見出しをつける。

- 1) 本文見出しは、章（3 行スペース）、節（2 行スペース）、項（1 行スペース）の 3 段階の構成を基本とする。記号等の形式は特に定めない。
- 2) 表、図、写真には通し番号と見出しをつける。番号等の形式は特に定めない。

8. 註記と引用文献

- 1) 註記と引用文献は、本文中の該当箇所に 1) 2) …… のように通し番号で記載し、文末に一括して掲載する。脚注等は用いない。
- 2) 文献の記載方法は次の形式で統一する。なお掲載雑誌名は一般的な略称を用いてもよい。また、外国文献は発行所名の後に発行地名を記載してもよい。

〔論文の場合〕

著者氏名：論題、掲載雑誌 / 書籍名、巻（号）、発表年 - 西暦、参照ページ

〔書籍の場合〕

著者氏名：書名、発行所名、発表年 - 西暦、参照ページ

- 3) 欧文文献の記載方法は次の形式で統一する。

〔論文の場合の例〕

Ian M. Matley (1968) : Transhumance in Bosnia and Herzegovina. *Geographical Review*, 58 (2), 23-26

Gisbert Rinschede (1988) : Transhumance in European and American Mountains. Edited by N. J. R. Allan and G. W. Knapp, *Human Impact on Mountains*, Roman & Liittelfield, 96-108.

〔書籍の場合の例〕

Preston E. James (1959) : *A Geography of Man*, Blaisdell Publishing Company, 40-43.

- 4) 全体的な参考文献のリストは必須ではないが、上記に準じた形式で掲載してもよい。引用文献として明示せずに、全体的な参考文献のみ掲載するのは適当ではない。

9. 原稿の提出

- 1) 原稿の提出先は、本学会編集委員会とする。
- 2) 本文原稿はパソコン、ワープロ等によるデータ作成を原則とする。(当分の間手書きによる原稿も認めるが、その場合、執筆者は各自の負担においてデータ入力作業の依頼を考慮すること)
- 3) 本文原稿の提出は、CD、FD（フロッピーディスク）等の電子メディアによるものとする。ただし、プリントを1部添付すること。
- 4) 図表、描画原稿は本文とは別個に作成し、十分に鮮明な原稿で入稿すること。
- 5) 写真原稿は本文とは別個に用意し、鮮明なプリントを用意すること。プリントサイズは大きいほどよい。また、カラー、白黒、いずれでもよい。
- 6) 図表、描画はデータでの入稿も認める。写真はポジフィルムまたはデータでの入稿も認める。デジタルデータの場合は十分に大きいサイズのデータを用意すること。
(注：よい印刷結果を得るためには、本論集の1ページ大で1.2MB以上、0.5ページ大で600KB以上、0.25ページ大で300KB以上のサイズが最低でも必要である)

10. 原稿の返却

原稿の返却は、原則として行わない。ただし図表、描画原版、写真原稿等に限り、返却希望があるときは、執筆者の実費負担により行うこととする。

11. 抜刷

- 1) 抜刷を必要とする場合は、必要とする部数を原稿表紙部分に明記すること。
- 2) 抜刷に関わる費用は執筆者の負担とする。

12. 投稿細則の改定

投稿細則の改定は、必要に応じて編集委員会が行い、理事会に報告する。

《査読規程》

1. 本論集への投稿原稿の採否は編集委員会が決定する。
2. 編集委員会は、採否の決定にあたって、専門分野別に2名以上の査読委員（学会員または非学会員）を委嘱して査読を行うことがある。委員のうち1名を代表査読者とし、期日までに審査結果を編集委員会に報告する。
3. 編集委員会は、査読委員の審査の結果を尊重して本論集への投稿原稿の採否を決定する。
4. 査読委員の審査の結果に基づき、編集委員会は原稿の疑問点、修正点などを投稿者に通知または提案し、原稿の推敲を求めることができる。
5. 査読委員の審査の結果、カテゴリーを変更して掲載を認める場合や、原稿内容の一部修正を行ったうえで掲載を認める場合がある。
6. 査読委員の氏名や審査の内容は公表しない。
7. 査読規定の改定は、編集委員会が必要を認めた場合に行う。